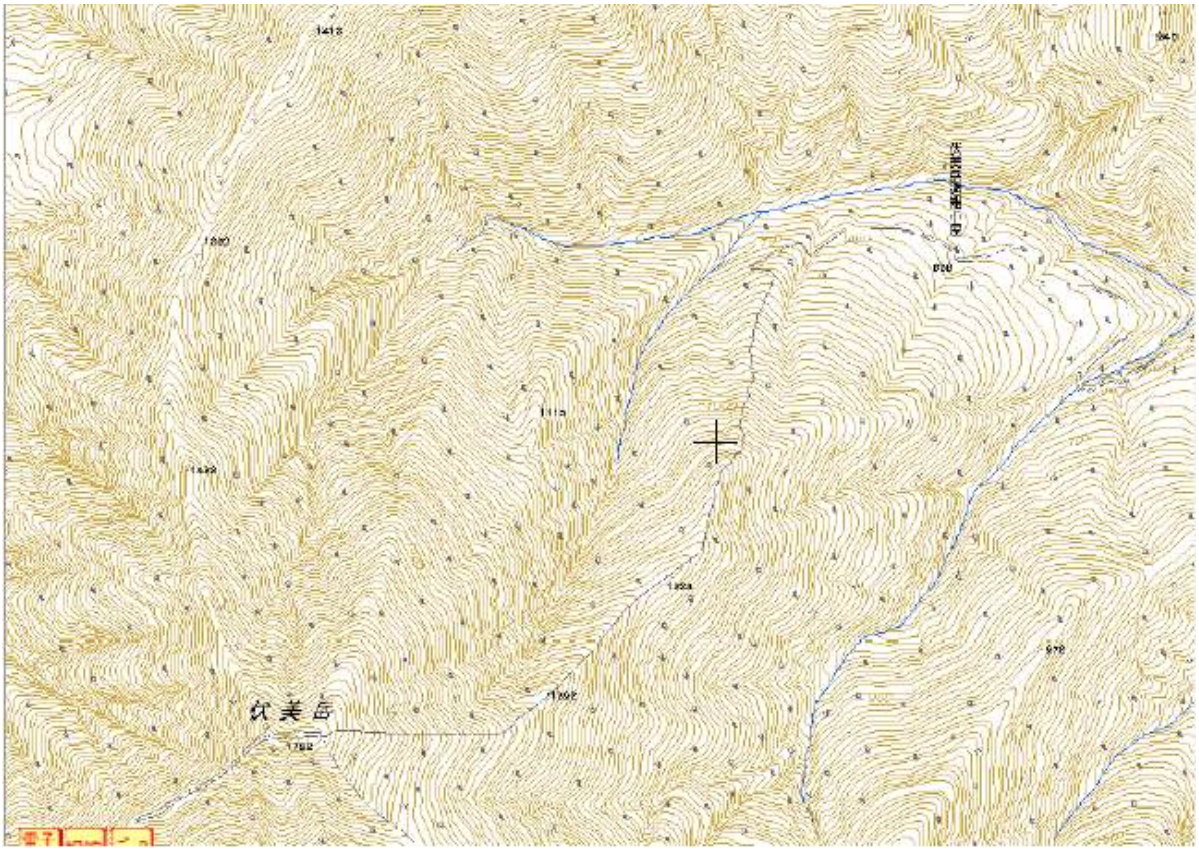
# 日高山脈 伏美岳登山

平成 22 年 6 月 5 日　　野呂 良彦

概要：　日高山脈は襟裳岬から大雪山の近くまで、北海道の約半分の長さの山脈であり、鋭い峰とカールを特徴とする山々が連なっている。雪が残っている季節には、山の姿が明確に見えるので、山脈全体を見渡せる所に立つと素晴らしい景観を得る事になる。雪の日高山脈を見るスポットとしては、日高山脈の主稜線から少し離れた位置にある十勝幌尻岳（1840m http://tiroro.haru.gs/katiporo.files/katiporo.htm）および伏美岳（1792m）が有名である。今回は現地の人の案内でより易しい伏美岳を目指した。

伏美岳は登山口から往復約 5 時間のコースタイムなので、前日は帯広市もしくはより近い芽室市に宿泊するのが良い。宿泊場所から登山口までは適当なバス便が無く、タクシーを使うことになる（今回は地元の人の車を利用）。横浜から行く場合、とかち帯広空港（距離的にはベストだが便数が少ない）もしくは千歳空港を利用し現地まではレンタカーで行く事が考えられる。因みに、千歳空港から今回利用した国民宿舎新嵐山荘までは約 180km（3 時間半）である。最近国内便では 65 歳以上の人に対し「空席シルバー」なる優待制度があり、片道 10,100 円でとかち帯広にも千歳まで行く事が出来る。

今回は札幌に所用があり、札幌から行動したので、宿泊地までの行程は参考にならないので横浜発として、千歳空港経由の仮の行程表を示す。




5 月 18 日：　9 時：金沢文庫発⇒（京急）⇒10 時：羽田空港⇒（JAL or ANA 空席シルバー）⇒13 時：千歳空港⇒（レンタカー）⇒17：芽室町国民宿舎新嵐山荘

5月19日の山行：

4時半：起床

5時半：宿舎発

6時10分：登山口　標高740m

雪は登山口まで解けていた。登山道に入ると直ぐに雪。

登山のタイミングとしてはベスト。

浅い沢の夏道に沿ってしばらく登る

6時30分：一合目　標高820m

後はひたすら、稜線沿いの夏道の上を行く

7時15分：標高1150m地点　見晴らしの良い稜線に出る

8時00分：1375m

8時47分：1660m

9時15分：1791m（頂上）

幸い、前日の雨が上がって、晴天。

日高山脈を南から北まで広く見わたす事が出来る

防寒着を羽織って、頂上でゆっくり時間を過ごす；コーヒーも酒も無し。

10時00分：下山開始

雪の状態が良く、簡単にブレーキを掛ける事が出来たので、大股で走るように下山

途中で、疲れてスピードは落ちる

11時20分：登山口

雪の状態：

今回、雪の状態は非常に安定したシャーベット状のザラメ雪であった。雪がしっかりしているために沈み込む事もなく、表面が氷化していなかったので、滑ることが無かった。

最大斜度は40度位あったと思われるが、斜面が広く、斜面の下が切れているような斜面が無かった為に、危険は感じなかった。また、雪の状態は、ザラメ雪の上に前日降った雪が乗った状態だったので、滑りは悪く、例え急斜面で転んでも直ぐに止める事が出来たと思われる。

装備について：

持参した装備品は、靴（革靴）、ストック（2本）、アイゼン（6本爪；簡易アイゼン）、シュパッツ、手袋、オーバー手袋、その他防寒着。ピッケルは持参しなかった。

当日の気温は、登り口で12～13℃、頂上付近で数度であった。当日、実際に使用した装備品は、靴、ストック、アイゼン、手袋、防寒着でした。それぞれに関し、簡単にコメントします。足元は水分を含んだ雪なので、靴は防水性の良いもので且つ雪を蹴飛ばして剛性のある靴が望ましいと聞いた。また、雪の無い所でも、雪解け水が流れている所が多いので、靴の防水は重要課題である。理想的にはプラスチック製の登山靴（スキーのブーツみたいなもの）がベストという話しであったが、普段使う事も考え、革製の登山靴を使用した。今回の山行に関してだけ言えば、これで十分であった。ストックは、急な雪面を四つ足状態で登る時に、特に有効であった。勿論、下りでも全般的に使用するので、非常に有効である。アイゼンは登り、下りとも

使用した。最初の 300m の登りはアイゼン無しで登山した。特に、不都合は無かったが、アイゼンを付けている方が、足に安定感が出る。また、下りも同様、滑り止めとして有効であった。シュパッツの有効性は言うまでもない。靴に雪・水が入る事を止めるのが目的なので、短いシュパッツで十分であった。ただし、付けるためには、中間の長さのシュパッツの方が便利と思われる。手袋は、下りで使用した。ただし、今回の参考に関して言えば、雪に触れる機会が少なかったので、必ずしも必要は無かった。同行した N 氏はピッケルを持参したが、ピッケルをピッケルらしく使用する機会は無かった。

印象：

残雪期の登山の素晴らしさを再確認した。

特に日高山脈は標高が低いので夏に見ると里山にしか見えないが、残雪期には稜線がハッキリして素晴らしい山容となる。また、夏はブッシュで覆われ、ブッシュの間を行く山道も、全て雪で覆われているために、見通しの良い、舗装道路となる。